

宿利町長 二期目に向けて

任期満了に伴い、1月23日に行われた、玖珠町長選挙において、宿利政和氏が再選されました。

1月24日に町民や職員に迎えられて初登庁し、二期目のスタートを切りました。

町長就任あいさつ

この度の町長選挙で、多くの皆さまからご支援を賜り、再選させていただきました。

町政をお預かりする者として、身の引き締まる思いと同時に、責任を痛感しております。

一期目・4年間の経験を踏まえ、引き続き「町や住民にとって良いことは何か」を基軸とする判断や、施策展開を進めたいと考え、さらに、皆さまからいただいた、ご意見・ご要望にも応えられるよう、努力を惜しまない対応を心掛けたいと思います。

この方針は、職員はもとより、関係機関と共有したいと考えています。

一期目を振り返り

初めて就任した4年前に、自らが考え行動できる力（「地域力」を備えること）、町の将来ビジョンや実践方法について議論を進めたい、と提唱し

ました。

そのため、町の将来像を描くにあたって、より多くの方々からご意見をいただきたいと考え、「とことん玖珠町 ワークショップ」を3年にわたリ開催し、将来像と実践について意見交換を進めてきました。

令和3年度にスタートした「玖珠町第6次総合計画」には、これらを踏まえた意見反映を行い、「協働参加のまちづくり」のスタートが出来たと思っています。

一方、地域や集落の課題や問題点を調査して役場に繋ぐ「集落支援員」制度を導入して、現在は、4名が各地区で活動していただいています。

さらに森地区では、住民が相互に支援し合う有償ボランティア「森地区くらしのサポートセンター」が誕生して、高齢者の手助けや、簡単な作業などを安価で代行してくれるサービス事業として、新たな取り組みがスタートするなど、他の地区への波及が期待される取り組みも行われています。



就任式であいさつする宿利町長

役場の役割と協働のまちづくり

行政の仕事は、「ゆりかごから墓場まで」と表現されるように、妊娠、出産、子育て、教育、就業、産業振興、結婚、保健、医療、介護、福祉、高齢者対策など、多様な分野において、住民の皆さまへより良い公共サービスを提供することです。

自助、共助、公助ともいわれますが、まずは国・県・市町村などが、暮らしの基本を支える仕組を整備することが大切です。

窓口や現地・電話などで、皆さまの意見と異なる事も時々ありますが、全てを行政が担うことは不可能であり、個人・地域・団体・企業などが自立に向かい、担えるよう導く責任

が行政にはあります。

夢・未来を創生する

新型コロナウイルス感染症により、本町も暮らしや仕事・家計など、大変なダメージを受けています。ワクチン接種や生活様式の見直しで、苦境を乗り越えなければなりません。

危機を脱出し、豊かな暮らしを創り出すこと、「夢未来を創生すること」は、現在を生きる大人が、将来の玖珠町を担う子どもや孫たちへの、最高の贈り物であり、責任であると考えています。

その方法のひとつに、「デジタル化の推進」があります。役所などの手続きが便利になること、システムを活用することで効率化されるもの、新しい産業の創出にも必要ですが、我々が数十年掛けて習得した知識や技術を、デジタルシステムとして、次世代に継承・活用することが可能となります。

また、台湾や福岡市との交流促進、宇宙港ビジネス、スポーツ交流や、カウベルランドなど、お客様で賑わう空間づくりも重要です。

「ゆりかごから墓場まで」、より良い暮らし環境を整備することは当然ですが、人口減少対策や産業振興は、

昭和37年6月 古後で生まれる
 昭和53年 古後中学校卒業
 昭和56年 大分県立日田林工高等学校卒業
 同年 大分県職員入職
 平成25年 大分県職員を退職
 平成30年1月 玖珠町長に初当選

趣味は、道の駅巡りで地域産品を観察したり、好きな曲を聴きストレス解消すること。
 林業改良(普及)指導員、都市農山漁村交流・まちづくりアドバイザー、グリーンツーリズムコーディネーターなどの経歴を持つ。
 妻と3人の息子と古後に在住

町長の略歴

直面する大きな課題です。
 住民の皆さまそれぞれの「新しい明日」のために、「仕掛け・実践」を重ねながら、頑張っています。
 「玖珠に生まれ、育って、暮らして良かった」と感じていただくため、手を取り合って一緒に歩いて行きます。

玖珠町長 宿利政和



初登庁で花束を受け取る宿利町長



当選証書授与式

地方創生・共同参画のまちづくり(主要な取り組み)

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底と、地域経済の活性化に取り組み、アフターコロナ(感染症終息後)を見据えた基盤づくりとして、新たなデジタル社会に対応したシステムの構築を図ります。
2. 令和2年7月豪雨災害及び令和3年8月11日からの大雨による災害からの復旧・復興をはじめ、国土強靱化に向けた環境整備、さらに、町民の安全安心の観点から、引き続き防災無線のデジタル化を推進します。
3. 地域産業の振興に積極的に取り組み、農林畜産物のブランド化による農家所得の向上に向けて支援を行います。
4. 多くの町民が参加しやすいまちづくりの仕組みを構築し、共同参画のまちづくりを推進します。また、人口減少対策として、若者の仕事を確保する企業誘致と、子育てしやすい環境を整えていきます。